

## はじめに

スーパーマーケットは、セルフサービスの食料雑貨店として、米国の起業家クラレンス・ソーンダースが創業したPiggly Wigglyという店から生まれた販売業態といわれている。彼は1916年にテネシー州メンフィスに1号店をオープンしたあと全米にチェーン展開を始めた。1920年代には北米全体でよく知られるようになり、現在にいたるまでこの業態は発展を続けてきている。今では一般的な、客が棚から商品を手に取り籠に入れ、カウンターに持って行って支払いをする方式だが、最近では、セルフレジの店も増えてきた。初期の食料雑貨店は肉や野菜を販売していなかったが、1920年代から生鮮食品も販売するようになった。

今回、米国で発展を続けるスーパーマーケットについて押さえておきたい代表的な例を紹介する。

## 1. 米国の代表的スーパーマーケット

### ① piggly wiggly

1916年創業のスーパーマーケットの元祖。現在では、米国南東部とウィスコンシン州（一部イリノイ州）で営業している。豚のトレードマークがいかにも古き良きアメリカを彷彿とさせる。17州でまだ600店舗以上ある。ジャストインタイム方式の製品配送を早くから取り入れ、のちにトヨタのジャストインタイム製造の手本となったといわれている。

### ②K mart

1897年にテネシー州メンフィスでKresge氏が創業したディスカウントストアが1912年には全米で85店舗を持つ規模となった。この会社が前身となり、1962年にK martの展開が始まった。現在は、イリノイ州に本社があり、米国47州に百貨店型の店舗を展開する小売大手である。2004年にシアーズを合併して、会社名称はシアーズ・ホールディングスとし、その傘下でK martの店舗を運営している。2000年の全盛時には2,000店舗以上あったが、現在は4分の1に減っている。

### ③Walmart

1962年Sam Walton氏が創業し、現在では、全米で3,500店舗以上展開し、傘下に、それぞれ600店舗を超えるNeighborhood MarketsやSam's Clubs（全米47州）などの店を持ち、米国に旅行した先で必ず見つかる世界一のスーパーマーケットになった。日替わりの特売による無駄（チラシ印刷など）を廃し、EDLP（Everyday Low Price）を徹底的に追求し、このEDLPで顧客の信用を得て、日本でも、傘下の西友が2008年から「KY（カクヤス）」というキャッチフレーズでこの戦略を展開している。

米国で低所得者層の店という雰囲気だったのが一変したのが、リーマンショックからである。それまで、中所得者層が店であまり買い物している光景が見られなかったが、2008年ころから広い範囲の所得者層が店に多く集まるようになり、最近では、“Shop online and save money to live better,

at Walmart.com.”といキャッチフレーズに力点を移しているといわれている。店に行くとEDLPのボードがあるが、安かろう悪かろうというイメージを持たれないように、新しいキャッチSMLB（Save Money Live better）の普及に力を入れている。

### ④Whole Foods

Whole FoodsはAmerica's healthiest grocery storeというキャッチフレーズで全米チェーン展開して最近急激に伸びている食品スーパーマーケットである。1980年創業で、現在は、全米で430以上の店舗を展開し、2017年にアマゾンが137億ドルで買収したことで有名である

オーガニックフード、自然食品、輸入食品やユニークな冷凍食品を品揃えし、最近のグルメ志向に合った品ぞろえが受け、比較的高級志向の食料品小売店チェーンである。

### ⑤Trader Joe's (Aldi Nord)

Aldi（全米35州で1,600店舗）と並んで、ドイツのディスカウントストアの傘下であり、1966年にパサデナでTrader Joe'sの名前で店舗を構えてから、全米47州で474店舗（2017年10月12日現在）展開している最近話題の食品スーパーマーケットである。米国の他店にない品揃えで、店も大きすぎず（10,000~15,000 sf,924~1,386m<sup>2</sup>）入りやすいのが特徴。店員も普段着でとても気さく。

食料品を始め、多くのオリジナル商品の展開でも知られ、輸入品も多く、Whole Foodsと並んで、比較的高級志向の食料品小売店チェーンとなっている。日本への土産で好評なのは、1個1ドルから買えるエコバッグ（カラフルな色使い）や真空包装したPop up Sponge（スポンジセット、12個セットで7ドル前後）などがおすすめである。

### ⑥Costco (コストコ) whole sale

日本にも進出しよく知られるようになった、アメリカ生まれの大型会員制の倉庫店で、1997年よりCostcoの名前で、現在では全米で約500店舗展開中。家庭に必要なものをすべて取り揃え、高品質の一流メーカー品を卸値に近い価格で提供するコンセプトが受け、日本では平日でも駐車場大混雑の光景がみられるようになった。

年会費を定額で払い、安さを1年通じて提供するという、スーパーマーケットのサブスクリプションモデルといわれており、アマゾンプライム（運送費無料など）と似たモデルである。同じく会員制にSam's Clubsがある。

⑦その他、Albertsons（2,400店舗、Jewel-Osco、Safewayが傘下）、Kroger（2,460店舗、Fred Meyerが傘下）、H mart（1982年にNYで開業した韓国系スーパーマーケット。現在全米で63店舗を展開中。）

## おわりに

米国出張時に時間を見つけて、米国を体感できるスーパーマーケットに一度足を運ばれてみることをお勧めする。